

# ふらぐ

マンガ  
第4話!!

この世界には  
ロマンがある

筋肉パパ  
は  
好かれたい!

お父さん、  
活躍する

目からの  
うろこ

「自らの地域は自らで守る」  
宗像市消防団

ついに





# 筋肉パパは好かれたい!!



第4話

お父さん、活躍する

ついに



新年度になり  
町内会の組長に  
なったお父さん

今日は地域の  
親子登山です

こっちは  
だぞー



それは  
ウスキ  
キノコ  
キヌガサタケ

とっても希少な  
キノコだから  
とらないようにね



わーっ  
キノコだ!!

もって  
帰ろう!!



キャラクター紹介

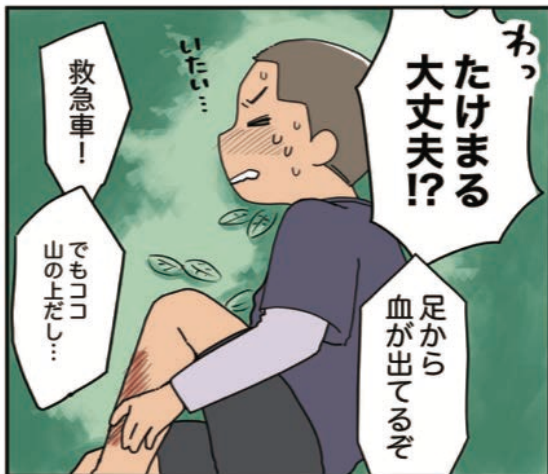
久原すなお…娘に好かれたいお父さん。筋トレとタンパク質が大好き。

久原メイ…最近父親がうざったい中学2年生。お隣のさくらちゃんと仲良し。

葉山さん…お父さんの憧れのお隣さん。vol.33参照。



うわっ  
ガサガサ



あ、  
たけまる  
大丈夫!?

足から  
血が出てるぞ

救急車!

でもココ  
山の上だし…



足ちよっと  
見せてね



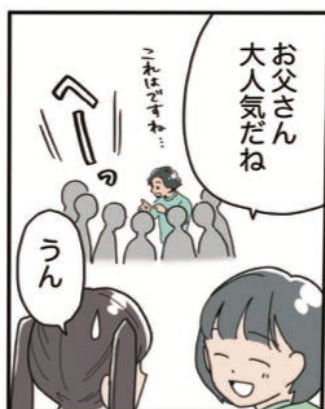
危ない所には  
行かない  
ようにね!



お母さんの  
たべものから  
いらぬ  
お父さん



あ、  
お父さん  
大人気だね



お父さん  
大人気だね

うん



山頂だあー!

わあ



ギャー

もの知り  
先生だー!

これは  
シーボルト  
ミミズだね



これは  
食べられる草  
ウマイ

天ぷらにすると



# NPOセンター インフォメーション

## 市民参加・市民参画は できることから

「市民参加」や「市民参画」と聞くと、すごく難しいこと、何か特別なこと、と感じる人も多いのではないかと思います。例えば、いつもの散歩のついでにごみ拾いをするや家庭でごみの分別をすることも「市民参加」のはじめのいっぽです。また、「市民参画」は企画や検討の段階から主体的に関わっていきます。企画したイベントなどは、いっぽ踏み出して参加する人たちを受け入れる「場」にもなります。

詳しくは、まちづくりの基本指針「宗像、カタロウ」ダイジェスト版をご覧ください



## いっぽ踏み出して 活動する団体

### ママボラむなかた

「子どもが小さい今だからこそできることがある」と、乳幼児を育てるママが中心となり独自の視点でさまざまなボランティア活動を行っています。おしゃべりサロンやママ向けのワークショップなどを企画・運営し、子育て情報誌も創刊予定です。家事と育児だけの毎日にモヤモヤしている人、何か新しいことを始めたい人、一緒に活動しませんか？



ママボラむなかたHP



## 問合せ先

宗像市 市民活動・NPOセンター  
[運営] 一般社団法人 PENTAGON  
TEL: 0940-36-0311 (平日9:00~17:00)  
MAIL: info@pentagon67.com

動かないように固定するからね

ちょっと強く結ぶけど痛くない？

メイ ちょっとと重り持ってて

うん

さてと…

↑5kgの重り

久原さん 今日大活躍でしたね

メイちゃんのお父さん

かっこよかったよ!!

山登りおつかれー 楽しかった？

今日葉山さんにかっこいいって言ってもらった!!

憧れの葉山さんに！ 最高!!

自分が好きで覚えたことややってきたことがこんなに喜んでもらえるなんて

今日はすごく充実した1日だった!

メイは怒ってたけど重り持ったことなど

ですよね？

あみぞん



# ひととまちの交差点



ふらぐ編集部  
アンドウ

## 堤万里子さん

看護師



看護師として働きながら4人の子どもの育てる。2019年から「福岡清爽(せいそう)クラブ」のメンバーとして博多駅や神社などの清掃ボランティアに参加。また、同年に宗像市の市民活動団体「子ども支援ネットワークWith Wind」に加入し、現在も地域の子どもの遊び場であるプレーパークで見守り活動を続けている。



世代を超えた出会いがある



楽しく遊ぶ子どもたちを見守る



お寺(戒壇院/太宰府市)の清掃ボランティア

宗像のまちで秘かに活動する魅力的な人。その「ひと」が「まち」と出会い、交わるきっかけを、ふらぐ編集部のアンドウが取材してきました。

子育てと仕事、そしてボランティア活動。パランスをとりながら、自分のペースで活動を続ける堤さんにお話を伺いました。

**アンドウ**：堤さんがボランティア活動を始めたきっかけを教えてください。

**堤さん**：4人の子どもの育てながら、二十数年宗像でお世話になっていたんですけど、私は宗像のことをよく知らないままでした。それで、一番下の子が中学校を卒業したタイミングで、ちょっと時間もできるし恩返ししたいという想いもあって、ボランティアをしようと調べ始めたのがきっかけです。

**アンドウ**：宗像市の「市民活動・ボランティア体験プログラム」で、子どもの見守り活動を体験してから市民活動団体への加入を決められたそうですね。

**堤さん**：はい。実際に体験したことで、事前に活動の内容や雰囲気、団体の子どもたちに対する想いを知ることができたのは本当に良かったです。自分がイメージしていた活動と一緒だったので、体験後すぐに加入しました。当時は「こういう活動がしたい」というよりは「何か自分ができる活動はないか」と模索しています。他にも、NPOセンターが募集していたボランティアスタッフに応募したり、宗像市の活動ではないのですが、同時に清掃ボランティアも始めています。たまたま県外の友達が始めたというのを聞いて、調べてみ

たら福岡でも活動していることがわかったので、最初は軽い気持ちで参加しました。

**アンドウ**：現在も清掃ボランティアと子どもの見守り活動をされているそうですね。活動を続けている理由とは？

**堤さん**：家庭や仕事だけでは出会えない人たちとの出会いですね。例えば、博多駅の早朝清掃ボランティアには、親子や登校前の高校生、自分を磨くために参加している経営者の方など、年齢も職業もさまざまな人が集まります。活動を続けることで、自分の考えの枠が広がり、もの見方や価値観が変わってきたと感じています。そして子どもの見守り活動は、面白い。子どもって自由な

させればさせるほど、自分で考え行動するんです。以前、小学2年生の男の子が「どんぐりのすべり台作ったけん見に来て」と言うので行ってみると、小山にびっしりどんぐりを敷き詰めてるんですよ。その上をすべることでスピードも出るし、楽しいみたいで。子どもたちの発想ってすごいんです。それを見るのが面白くて、毎回楽しく参加しています。

**アンドウ**：お仕事をしながらボランティア活動をされている、大変だと感じることありますか？

**堤さん**：今は先にボランティアの予定を入れて、空いた日に仕事を入れるという働き方をしています。自分の中で優先順位を決めて、自分でスケジュールを調整しているので大変だと感じるこ

とはあんまりないですね。収入の面で仕事も大事なことで、仕事とボランティアの日程が重なったときに、本当はボランティアに行きたいけど仕事もしないと、と悩むことはありますけどね。

**アンドウ**：堤さんの活動の原動力となっているものは何でしょうか？

**堤さん**：4人の子どもの存在が大きいかな。親の背中を見て子は育つ、といいますがね。私が子ども頃の頃を思い返してもやっぱり親を見てたなあって。親がやってたんだから、自分にもできるんじゃないかと思える。例えば、お母さんがいきいきと楽しそうにボランティア活動をしていたら、子どもはその姿を見て「自分もあんな風になるんだらうなあ」って未来をイメージすると思うんです。だから、そんな姿を子どもたちに見せたいと思っています。

“あなたにとっての交差点は、どこですか？”

“ボランティア活動から生まれた人との出会い”







第27 番外編

日々子育て奮闘中のしぎょうが地域で取り組む活動取材してきました。

# 「自らの地域は自らで守る」 宗像市消防団

日頃活動が大きく取り上げられることがない「消防団」。その見えない活動や精神、取り組みなどについて、宗像市消防団団長の熊谷さんと、消防団と連携して地域の防災を担う宗像市危機管理課の小田さんに話を伺った。



ふらぐ編集部  
しぎょう

## 地域の消防防災リーダーである消防団

自然災害や火災などのニュースを目にしたとき、現場において最前線で対応しているのは消防署だけだと思っている人は多いのではないだろうか。消防署と連携して現場に駆けつけ、被害の拡大を防ぎ、消火活動や復旧作業に貢献している人たちが実は私たちの身近な地域にもいる。消防団だ。「自らの地域は自らで守る」という精神に基づき、地域の安全と安心を守る活動をしている人たちの集まりである。

宗像市消防団は県内に73団ある消防団の中で10番目に団員数が多く、活動エリアを赤間・東郷・玄海・大島の4地区に分け、総勢545人の団員が各地域の17の分団に所属している。農業従事者などの自営業者や市職員の割合が多く、活動する中でやりがいや使命感を感じるようになり、数十年団員を務める人もいる。545人を束ねる団長は消防団としてのキャリアが約30年になる大ベテランで、市内の企業に勤めながら消防団活動を行う地域愛にあふれる人だ。団員は出動に心してわずかながら報酬を受け取るが、消防団活動を本業として生計を立てているわけではなく、各自仕事を持ちながら特別職の地

方公務員として活動している。

## 消防団は陰のヒーロー

消防団が出動するのは火災のときだけではない。近年増加している洪水や土砂災害では避難を促すため市内を巡回し、被災した箇所の応急復旧作業を行う。他にも行方が分からなくなった人の捜索依頼があれば駆けつけるなど、消防団活動は多岐にわたる。

各地域にある分団の格納庫には消防ポンプ車が配備されており、火災発生時には団長を司令塔として団員に招集がかかる。消防団員は市民に過ぎないが、火災の現場では消防署だけではまかないきれない人員の補填や交通整理を行うなど、陰ながらさまざまな場面で幅広く活躍している。

万が一の時に力を発揮するために欠かせないのが、日々の訓練やポンプなどの機械器具の点検だ。毎月1回の基本的な訓練と2回の機械器具点検の他に、山林火災を想定した訓練、水源が近くにない火災を想定して長い距離を消防ポンプ車で連結させる中継訓練、文化財が火災にあった場合を想定した訓練など、さまざまな消火訓練を行っている。また火災の多くなるシーズンには火の元の注意を呼びかける防火啓

発パレードや夜警なども実施している。消防団には20人で構成された「女性班」もあり、女性ならではの視点や細やかな配慮を活かして高

齢者施設やたまご学級、学校などへ救急救命講習や防災などの啓発活動を行っている。「地域の安全のために活動している消防団ですが、初期消火に貢献しても、行方不明者を発見しても、その活動が大きく取り上げられることはありません。消防団について目立った活動が見えないというのは、大きな災害が起きていないことの裏返しでもあるので、まちにとっては良いことなんです」と危機管理課の小田さんは話す。

## 市民に身近に感じてもらうための工夫

消防団が功績を讃えられる機会は毎年1月に行われる出初式(でぞめしき)の中にある。出初式は江戸時代に起源をもつ新春恒例行事で、消防団や消防車のパレード、消防団員、消防功勞者に対する表彰などが行われる。宗像地区では消防本部・宗像市・福津市が毎年交代で主催。もともとは消防関係者のみで行われていたが、近年は「日頃から防災の意識を持ってもらいたい」「消防団の存在を身近に感じてほしい」という想いか

次ページにつづく



菜の花畑で林野防ぎょ訓練



左から団長の熊谷さん、危機管理課の小田さん

## プロフィール

宗像市消防団 団長 **熊谷 浩文**

宗像市土穴出身。(株)石松不動産で勤務をしながら、消防団活動を行う。宗像東部剣道教室で指導をしており、青少年育成にも尽力する。

宗像市 危機管理課 消防主任 **小田 淳**

宗像市緑町出身。県内の大学を卒業後、県外でのゼネコン勤務を経て、平成26年宗像市役所に入庁。維持管理課、建設課を経て、現職。



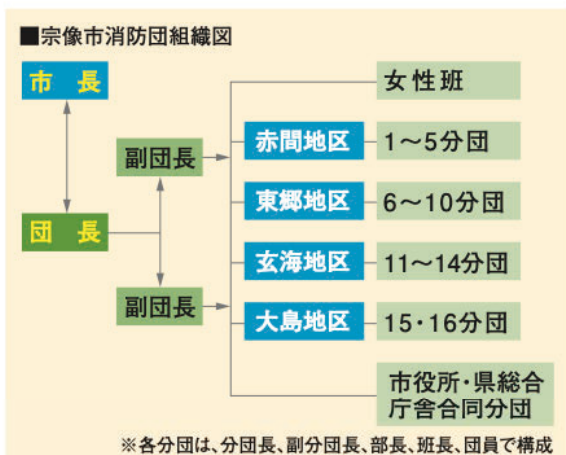
## 消防団が抱える課題

近年、梅雨や台風の時季に地球温暖化による気候変動の影響が重なり、局地的な大雨による被害が全国各地で多発するようになった。消防団の「自らの地域は自らで守る」という姿勢と精神は今後さらに重要になってくると言えるだろう。

「消防団は市民のみなさまの安心安全な暮らしを守るために活動をしています。全国的に消防団員数が減少する中、宗像市消防団の団員数も減少傾向にあります」と話すのは熊谷団長。入団してからの28年を振り返り、「消防団の活動は正直つらいと感じるときもありましたが、たくさんの方の経験を通して成長でき、一緒に活動をする中でたくさんの方の仲間に恵まれたと感じています。今後も努力・精進を怠ることなく、活動技術にもさらに磨きをかけ、一丸となって活動していきますので、引き続き消防団活動へのご理解、ご協力をお願いいたします」と話す。

消防団の活動を維持していくことは、地域の

安全と安心を守ることにつながる。そのためには市民の力が必要不可欠だ。消防団活動に興味のある人は、まずは宗像市危機管理課に問い合わせをしてみてください。



宗像市危機管理課0940-36-5050



防災ワークショップ



ブラインド訓練



出初式



消防団車両

## Furagu News

### サークル CIRCL むなかた井戸端会議 Vol.4

「CIRCL」は、テーマに応じたゲストの話をもとに、少人数単位の車座で意見交換を重ねていく現代版井戸端会議です。

- テーマ** これからどう描く?宗像の10年後の未来
- 開催日** 2022年7月27日(水)18:30~20:30
- 場所** メイトム宗像 結工房
- 対象** 10~50代。宗像市在住、もしくは仕事で関わる人、移住を検討している人
- 定員** 先着20人
- 参加費** 無料



申込みはこちら



## 読者の声コーナー

みなさんから寄せられたさまざまな質問に、ふらみ先生が答えます!



質問者

釣川沿いのごみ拾いを定期的にやりたいんだけど、ごみ袋は支給してもらえるんですか?

宗像市には、清掃場所やごみの収集場所などを登録すると、グリーンネットという緑色のネットのごみ袋の配布と回収したごみを収集してもらえる仕組みがあります。市役所西館2階の環境課(0940-36-9092)を訪ねてくださいね。



参考ページ 環境美化ボランティアについて



ふらみ先生



みなさんからの声を募集しています。ふらみ先生が質問に答えてくれるかも?

